

## 特許抄録

第十九卷第七號 昭和八年七月

## 盾堰開閉装置

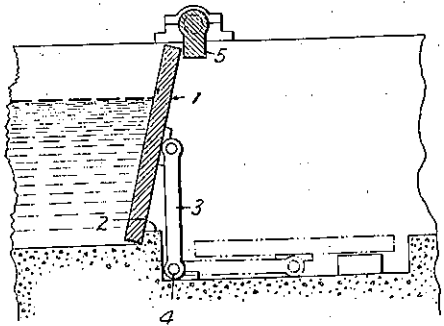
(特許第 100 478 號 特許権者(發明者) 山崎善周氏)  
 (出願昭和7年3月15日 公告昭和7年12月19日 特許昭和8年4月10日)

本發明は盾堰開閉装置に於て、盾堰内の水が所定の水平線を超過した場合、其増水の一部を利用して堰板を自動的に倒して排水すると共に、排水後に於て各部の聯動機構を原位置に復せしめんとするものである。

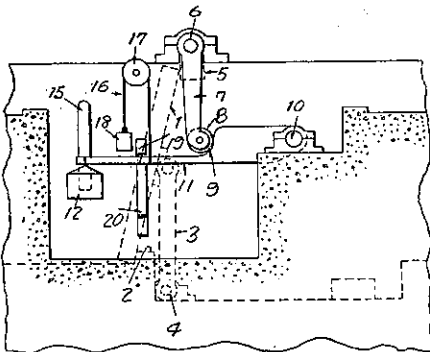
之を説明すれば、閉鎖時に於ては、堰板 1 は、其脊部は支柱 3 に堰着され、上端は係止板 5 に、下端は敷居 2 に夫々支持されてゐる(第一圖)。

係止板 5 を固定してゐる軸 6 は其一端に作用片 7 を固定してゐる(第二圖、第三圖)。作用片には、下部に廻轉自在のローラー 8 が装着され、之がカム 9 に係合するやうになつてゐる。カムは底に小孔 13 のある水受部 12 を先端に持つ可動杆 11 に設けられてゐる水受部へは増水の際水が導水管 15 を通つて入

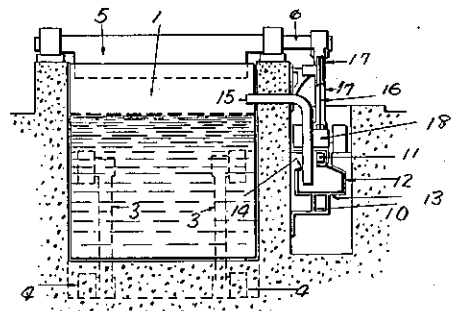
第一圖 堰板縦断面圖



第二圖 聯動機構を示す側面圖



第三圖 堰板正面圖



るやうになつてゐる。可動杆 11 は滑車 17 にかゝるロープ 16 の先端の重錘 18 に依つて上向作用を受ける。9、20 は可動杆の上下運動を制限する突起である。

今増水して、水受部に溜つた水の重量が重錘の重量より重くなると、可動杆 11 は下り、従つてローラー 8 は轉動してカム 9 から離れ、堰板 1 は水壓により係止板 5 を押して 第一圖 鎖線の如く倒れるのである。

然る時は、水平線は導水管 15 の上部入口よりも下るからこゝから水の入ることはなく、従つて水受部中の水は底部の小孔から徐々に排出される。斯くて重錘の重量の方が重くなると、可動杆は上向して原位置に復し、之より先き自重により原位置に復せるローラーとカムが互に係合し、こゝに各部の聯動機構が待機の状態におかれるに至るのである。

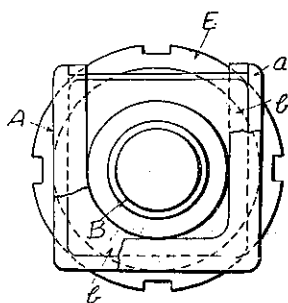
次いで堰を起して係止板、敷居に夫々支持させれば前同様に堰止作用を爲すことが出来るのである。

## 水 管 接 手

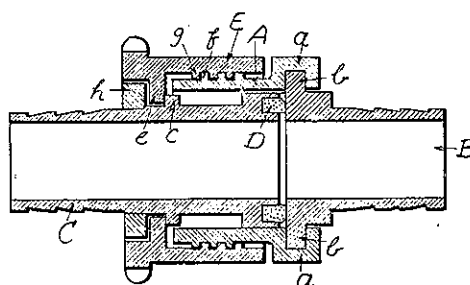
( 特許第 100 667 號 特許権者(發明者) 狩野隆逸氏 )  
( 出願昭和8年5月28日 公告昭和7年12月2日 特許昭和8年4月19日 )

本發明は、雌雄兩管の接合部に於ける押壓管を僅に旋回することに依つて簡單迅速に接合分離を爲さんとするものである。之を説明すれば(第一圖及第二圖)、接合管 A は方形をなし雄管 B の鏢縁 b を抜き挿し自在にする爲、上部を開口してゐる。雌管 C は端面にゴム環 D を嵌着してゐる。尙最外周には押壓管 E があり、其内周突縁 e が雌管の段部 c に觸れ、其螺旋 g が接合管の螺絲 f と螺合するやうになつてゐる。

第一圖 正面圖



第二圖 横斷面圖



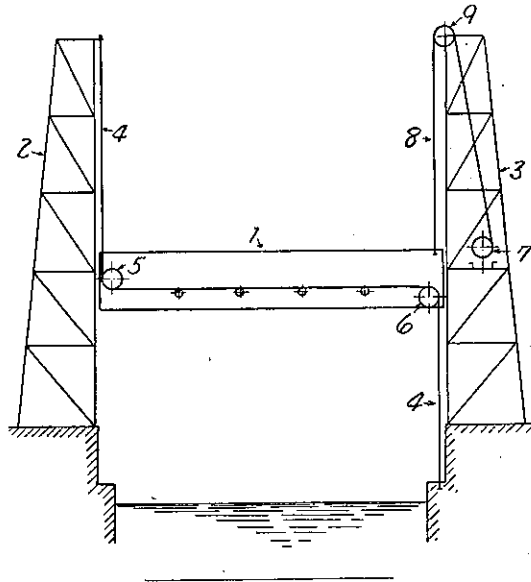
今前記螺旋と螺絲とを螺合し、押壓管の内周突縁 e を雌管の段部 c に係合せしめて、押壓管 E を旋回すれば雌管は雄管端面に壓着する。而して押壓管 E を反對に廻轉すれば、内周突縁 e は螺環 h に觸れて雌管 C が僅か後退する。従つて雄管 B を上方に持ち上げれば簡単に脱出せしめることが出来るのである。

## 可 動 橋 動 力 装 置

( 特許第 100 914 號 特許権者(發明者) 坂本種芳氏 )  
( 出願昭和7年6月1日 公告昭和8年1月6日 特許昭和8年5月5日 )

本發明は可動橋を片側揚降に依つて些も傾斜せしめることなく、之を確實に昇降せんとするものである(第一圖)。今揚降機 7 を運轉して捲索 8 を捲くと、昇降桁 1 の片側が上方に引かれ、先づこの部分が單獨に上昇しやうとする。然るに其直下の滑車 6 は補助索 4 によつて支へられてゐる爲、この部分が上昇する丈け補助索は全體を通じて昇降桁と關係的に移動する故、桁の他端も夫と同量丈け移動する。従つて桁は傾斜することなく原状を保ち乍ら上昇することが出来るのである。反對に下降の場合も之と同様である。

第一圖 可動橋動力装置



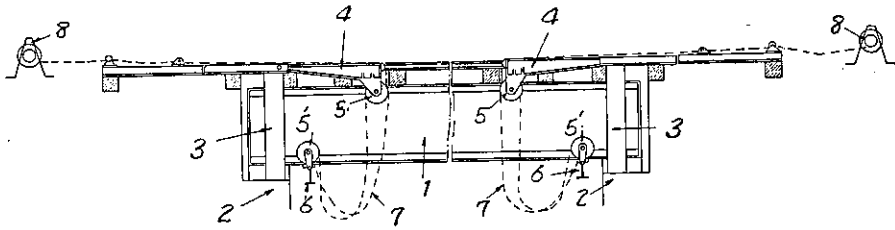
鐵 橋 換 架 方 法

( 特許第 101 002 號 特許權者(發明者) 稻 積 豊 二 氏 )  
 ( 出願昭和7年5月24日 公告昭和8年1月6日 特許昭和8年5月9日 )

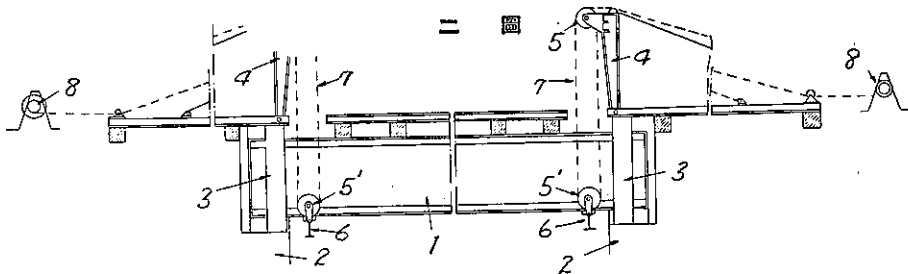
本發明は鐵橋の軌道を利用して簡單なる装置に依つて新舊鐵橋を簡易迅速に交換架置せしめんとするものである。本換架方法を圖面に就て説明すれば、

先づ除去すべき舊橋に捲上機を装着して(第一圖)、鐵橋を吊り上げ(第二圖)、適當の位置に來た時之を止め

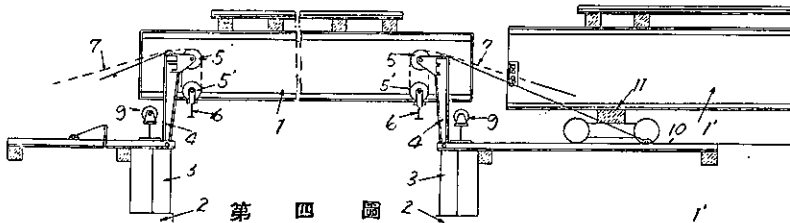
第一圖



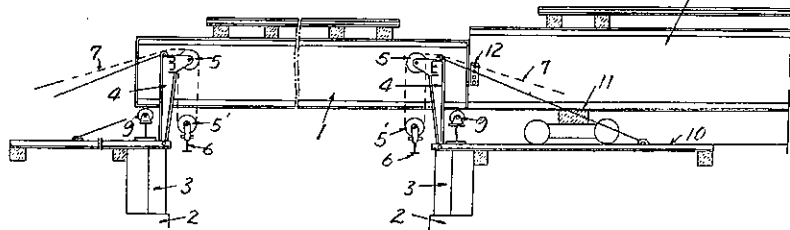
二 圖



第三圖



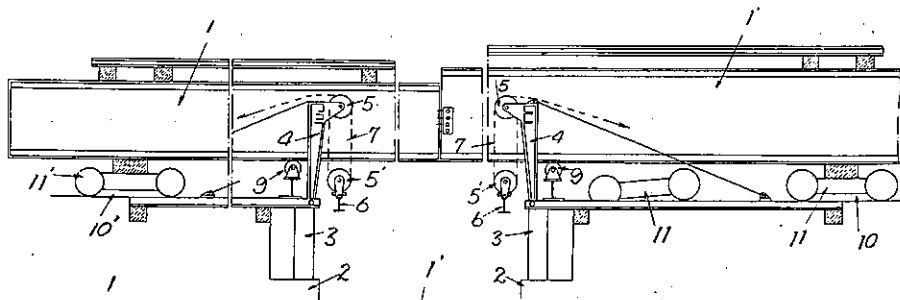
第四圖



(第三圖), 舊橋を轉軸上に載架し, 同時に新橋を之に連繫する (第四圖)。

次いでトラックと轉軸とに依り兩橋を移動せしめ (第五圖), 新橋が轉軸上來た時之を止めて, 捲上機を裝着する (第六圖)。次いで新橋は, 宛も舊橋の 第三圖, 第二圖 及び第一圖 に於けるが如き操作を順次に受けて所定の位置に据置せらるるのである。

第五圖



第六圖

